

りっぷる

エスコープ大阪機関紙

第264号

1

25.

.27

C o n t e n t s

表紙

・「令和の米騒動」を教訓に今と未来の食卓のためにできること

P2

・「竜おうみ米」を食べて近畿圏に食料基地をつくろう！

P3

・活動報告 「よやく・みかん」登録よびかけ／立川有機米研究会堆肥施肥視察／見守りサポーター研修①

P4

・W.Co紹介 「ワーカース・コレクティブ 円」
・理事会報告
・おたよりネット 編集後記

「令和の米騒動」を教訓に 今と未来の食卓のためにできること

生活クラブ関西6生協*は、「JAグリーン近江」(以下、JA)、「竜王町稲作経営者研究会」(以下、稲研)と共に滋賀県竜王町で『竜おうみ米』を主軸にした主産地形成(2面参照)をすすめています。生産者が作り続け、組合員が食べ続けられる生産と消費の取り組みを通して食料基地づくりをすすめています。

2024年夏、スーパーの米が品薄となり価格が上がり、私たちの日常生活に大きな不安を与えました。米市場の動向と持続可能な生産と消費のあり方について、JAグリーン近江営農事業部農産販売促進課の安孫子雅則課長にお話を伺いました。(聞き手:消費担当常務理事 山路 登葉)

*生活クラブ関西6生協: エスコープ大阪、生活クラブ都市生活、生活クラブ大阪、生活クラブ京都エル・コープ、生活クラブ奈良、生活クラブ滋賀



JAグリーン近江
営農事業部 農産販売促進課 課長

安孫子 雅則さん

「令和の米騒動」の背景

山路 スーパーでお米が買えない状況はどうして起こったのでしょうか。

安孫子 「令和の米騒動」の背景には、さまざまな要因があり、それらが重なって起こったことだと思います。まず、過去に遡るとコロナ禍では米余りが生じ、国内の米の在庫量が増えると共に米価は下がり、その結果、米の生産量を減らすこととなりました。また、ロシアのウクライナ侵攻などの影響から肥料など資材の高騰により稲作は大変厳しい状況に陥り、生産者は作っても十分な収入が得られない米よりも、政府からの補助金が得られる麦や大豆作りへシフトする傾向になりました。

このような状況の中、2023年産米は全国的に不作となったことに加え、インバウンドなどの需要や、更に8月には気象庁が発表した「南海トラフ地震臨時情報」の影響もあり、一気にお米の需要が高まったことが要因だと考えます。JAでもお米の在庫不足は予測していましたが、これほどまで需給バランスが崩れることは、想定できませんでした。

山路 政府は「米はある」と言っていますが。

安孫子 「米がある」と言われたのは、収穫の秋を間近に迎えることだと思いますが、国内の在庫量や近年にない急激な需要の高まりからスーパーの店頭からお米が無くなるなど、すぐに市場が落ち着く状況ではなかったのではと疑問が残ります。実際、JAや米卸では、年間契約したお米の在庫はあるものの、市場在庫を補えるだけのお米の余裕はありませんでした。

山路 本来であれば市場に左右されない取り組みでしたが、私たちの生協でも市場と同じようなことが起きました。組合員が主食であるお米がなくなることに危機感を持ち、お米を注文する電話が生協に殺到しました。今回の米騒動は、「冷静さを失った消費行動」も影響していますね。日頃から不安定な市販のお米を買うのではなくエスコープ大阪で食べる力を集めていけば、生産者、圃場を確保することにもつながります。

「安心して食べる」ために

「安心して生産できる」ことが必要

安孫子 昨今の気候の影響を考えると、米を作付けしても計画通り収穫できないという保証がなく、生産は不安定です。稲研(竜おうみ米)では、1反あたりの米の収穫量が年々低下しており深刻な状況です。また、現在は、肥料などの資材高騰など生産コストは上昇している中で、生活費の上昇に伴って、お米の価格については検討が必要な状況です。『竜おうみ米』を安心して食べていただくために「安心して生産

できる」ことが重要だと考えます。

山路 再生産可能で食べ続けられる価格をもっと話し合っって一緒につくっていく必要があります。

安孫子 「安定して生産できる」作り続けるためには、再生産できる市場に左右されない安定した収入が、一定程度保証されることが必要だと思います。

山路 生活クラブ連合会では生産のための基金を設置している消費材もあります。価格と合わせて新たな仕組みづくりが必要だと実感しました。

お米を登録して、私たちの生産者と田んぼを確保しよう！

安孫子 生産者は「安定して生産できる」ことを望んでいて、「食べる約束」は今後の生産に必要不可欠です。

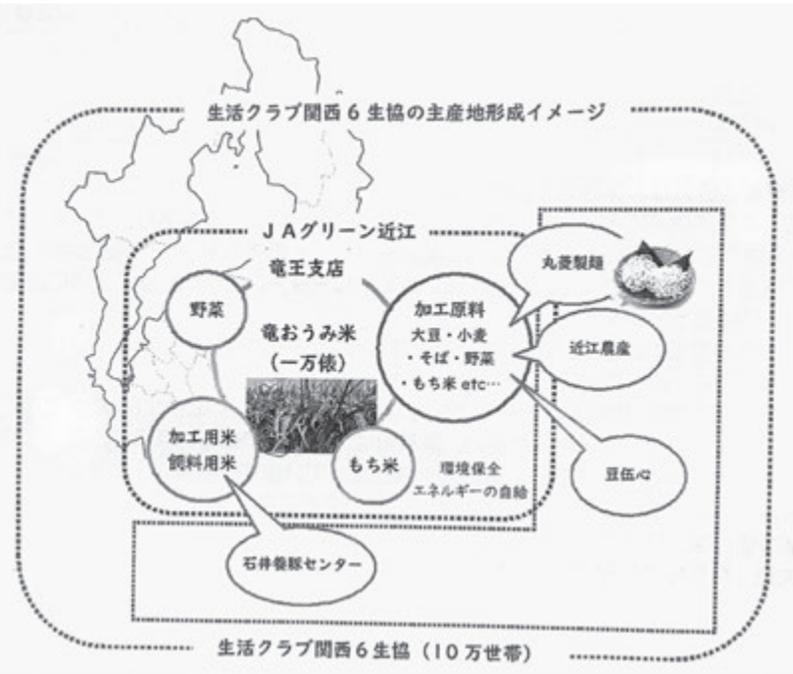
山路 JA、稲研、生活クラブ関西6生協は「JAグリーン近江産地別推進6単協連絡会」を開催して生産現場の状況について情報共有し、1年前から翌年の生産計画を立てています。市場のお米がなくなつたからと、慌てて生協で米を登録する組合員が増えると、日ごろから登録してお米を食べている組合員に供給責任を果たせなくなります。エスコープ大阪でも、自由注文より登録してお米を食べることをこれから組合員に呼びかけていきます。JA、稲研と運動政策と一緒にすすめることができ、話し合いができる関係を今後も大切にしながら、新たな仕組みづくりをすすめ、持続可能な生産と消費に取り組んでいきます。

『竜おうみ米』を食べて 近畿圏に食料基地をつくりだそう！

エスコープ大阪を含む生活クラブ関西6生協は、2013年より「JAグリーン近江」「竜王町稲作経営者研究会」と共に滋賀県竜王町を中心に『竜おうみ米』を主軸とした主産地形成(食糧基地づくり)をすすめています。

関西6生協の組合員10万人で『竜おうみ米』を年間1万俵消費することを目指しています。米を主軸に耕畜連携や加工品開発などの地域内循環や食の自給力を高めて食料確保(食の安全保障)と持続可能な生産と消費に取り組んでいます。さらに環境や福祉コミュニティなどの課題も含めた持続可能な産地づくりで生活クラブの「つながるローカルSDGs」をすすめています。

※生活クラブ関西6生協：エスコープ大阪 生活クラブ都市生活 生活クラブ大阪、生活クラブ京都エール・コープ、生活クラブ奈良、生活クラブ滋賀



関西6生協で『竜おうみ米』を年間1万俵食べることで実現したいこと

生産者、JA、組合員が互いに意見を出し合い、課題を共有し、栽培方法から価格に至るまで協議をして決めています。自分たちの想いをカタチにできる主産地をつくっています。私たちが『竜おうみ米』を食べることは、農業や化学肥料を減らし持続可能な農業と産地づくりを推進することにも、近畿の水がめである琵琶湖を守ることに繋がります。周囲の環境を守り自然の生態系を崩さないような環境保全型農業を確立します。

関西6生協の食料基地として、米を主軸に多様な野菜や果樹、大豆や小麦など加工品原料、畜産飼料などの提携をすすめていくことで、その地域での働く場を生み出すことも、私たちが取り組んでいることです。現在、もち米や「(株)豆伍心」の豆腐原料となる大豆の栽培がすすんでいます。さらに米の転作作物の飼料用米や加工食品材料になる野菜、なたね、小麦、そばなどの栽培について複合的な取り組みを模索しています。実現すれば、深刻化する離農の現状を打開し、次世代を担う若手就農者の育成や増加にも追い風になります。

『竜おうみ米』ってどんなお米？

『竜おうみ米』で使用する農業は、田植え後の病虫害防除なしで、除草剤1回(3成分以下)のみです。種子消毒も農薬を使用せず、手間ひまかけて湯にひたして湯の熱で消毒する温湯消毒をしています。肥料は化学合成肥料に頼らず鶏ふん、油粕などの有機肥料100%の土づくりをおこなっています。

品種は早生の「みずかがみ」、中生の「キヌヒカリ」そして晩生の「秋の詩」の3種類で、組合員のところに順番に届きます。3品種を組み合わせることで、農作業の分散を図り、収

穫量減少のリスクも同時に分散しています。

『竜おうみ米』の猛暑対策

近年の記録的な猛暑による水稻の高温障害は、登熟不良や白未熟粒などを発生させ、収量や品質が低下することで、生産者の収入にも大きな影響を及ぼしています。

水稻の高温障害は出穂期以降に高温に当たることによってデンプン供給機能がうまく働かず、米粒が白濁化する現象です。また、稲体が高温になることで窒素飢餓に陥り、収量減少にも繋がります。

滋賀県東近江市の20年前の7~8月の平均気温は26.5℃だったのに対し、現在は27.9℃と1.4℃ほど上がっています。最高気温が38℃を超える日もあり、『竜おうみ米』を作る上でも厳しい状況が続いています。『竜おうみ米』は、慣行栽培と比べると施肥量も多く、肥料代がかかる上に、高



エスコープまつり2024にて

●エスコープ大阪の『竜おうみ米』消費量実績 (単位:俵)

2013年産米	699	2018年産米	1,108
2014年産米	910	2019年産米	1,186
2015年産米	1,011	2020年産米	1,245
2016年産米	1,131	2021年産米	1,245
2017年産米	1,181	2022年産米	1,192



『竜おうみ米』の出穂確認

『竜おうみ米』における高温対策

①高温耐性のある品種の作付

『竜おうみ米』で「みずかがみ」を採用、今後も高温耐性のある品種導入検討

②作付時期の変更

植付時期を遅らせることで、登熟期(収穫に適した状態に達する前の成長する時期)の高温回避

③水管理の徹底

夜間の用水かけ流しや幼穂形成期の間断かんがい(田に水を満たした状態と水を落として干した状態を数日おきに繰り返す水管理技術)などで稲への負担軽減

④肥料設計

地力増進作物(ヘアリーベッチ)の作付による初期成育確保の増量などで登熟期後半の肥料不足回避

温の影響でここ数年は収量も減少傾向です。厳しい夏の高温に耐え、環境に配慮した大変な栽培に取り組む生産者やJAと共に、食料基地づくりをすすめていきます。

河内長野・大阪狭山地域
「よやく・る みかん」
 登録よびかけ
 2024年9月19日(木)
 河内長野支所(河内長野市)
 9月25日(水)
 エスコープ大阪本部(堺市
 南区)

河内長野・大阪狭山地域理事
 沼田 典子

「よやく・る みかん」
 登録の呼びかけは組合員と
 話せるいいチャンス!

コロナ禍が明けても直接組合員と話せる機会が少なくなっています。生産者との消費の約束を果たせるよう、電話で「よやく・る みかん」の登録呼びかけを毎年実施し、産直活動の意義についても伝えていきます。今回は180名ほどの組合員の皆さんと話をすることができました。

2024年はエスコープ大阪とみかんの生産者「豊共園」の産直活動が始まって50周年の節目にあたり、この50年間、生産者が安心して作り続け、組合員が安心して食べ続けるための約束をして、国産果実の自給を守るための取り組みをしてきました。50年という長い年月、豊共園とエスコープ大阪が約束を守り続けてきた信頼感、関わってきた人たちの努力や苦労を思うと改めてすごいことだなあと

感じました。

話をすると、毎年楽しみにしているという人がたくさんいました。「人と話すことが減って、久しぶりに地域の組合員さんとおしゃべりできてうれしかった」「豊共園の人たちに会いに『エスコープまつり』へ行こうかな」という声もありました。中には50周年記念プレゼントのジュースがほしくて、「応募できるようなう少し注文を増やします」という方もいました。

組合員と話すなかで、気候危機などでみかんの栽培も大変ですが、生産者と課題を共有し一緒に考え続けることの重要性を再認識しました。電話呼びかけはそんな思いを共有できるいい機会です。みかん以外の消費材や地域活動についても話題にできたらもつとうれいので、2025年もぜひ続けていきたいです。今回の呼びかけの結果、受注量は昨年より775キロ増になりました。

消費委員会
立川有機米研究会
 堆肥施肥視察
 2024年10月13日(日)
 ~14日(月・祝)
 山形県東田川郡庄内町

消費担当常務理事
 山路 登葉

ササニシキの堆肥散布を
 確認しました!



堆肥散布機の前で撮影

良い土ができなければ有研のササニシキは作れないとお聞きし、生産者の皆さんが誇りを持ってササニシキを作っていると感じました。

「立川有機米研究会」(以下、有研)が栽培するササニシキの堆肥散布作業を推進者6名が視察しました。有研とエスコープ大阪は1990年より産直提携を開始し、エスコープ大阪が生活クラブ連合会に加入した後も、有研の「ササニシキ」を「交流米」と位置づけ、作る人と食べる人の交流を続けています。

これまで実施していた「稲刈り交流会」は形骸化していたため、2023年度、生産者と協議して栽培が難しいササニシキについて組合員がより理解を深められるよう、堆肥散布作業を視察することに決定しました。

当日は4人がかりで作業をされていました。大きな堆肥袋をクレーンで釣り上げ、袋の底を切って堆肥散布機に移し、田んぼに散布します。「春または秋に実施する堆肥散布で

堆肥散布と合わせて、7月の大雨やイノシシの被害を受けた水田の視察のほか、「亀の尾の里資料館」や「六洲砂防堰堤」なども訪問しました。また生産者の皆さんとの交流や懇談の時間もとり、米作りに対する思いや苦労を知ることができました。

生産者から「ササニシキは作りにくい品種ですが、エスコープ大阪の皆さんが食べたいというのであれば、がんばって作り続けます」という言葉をいただきました。冷めてもいいしくいただけけるササニシキは組合員に根強い人気があります。今後も交流米として毎年500俵食べる約束をしっかりと守れるよう、取り組みをすすめていきます。

子育てママが
 ほっとするひろば「見守り」を



「見守りサポーター研修」を開催しました。子どもが喜ぶおもちゃの使い方、見守りで気づいたことや対処方法をテーマに、各地域での「子育てひろば」の取り組み方を共有し、気づいたことを今後活か

2024年5月に「子育てサポーター」と「エッコロ託児サポーター」の役割を統合し、見守りサポーターが誕生しました。9月に「見守りサポーター養成講座」を修了したサポーターと先輩サポーター計10名が参加し、初めての

見守りサポーターの画像を見ながら、プロジェクトの皆さんに、各地域

でおこなっている子育てひろばの見守りの様子を話してもらいました。会場の違いで見守りの視点や対応が変わってくることも、おもちゃは数が少なくても工夫して遊んでいることを共有し、大人が遊び方を教えるのではなく、子どもの創造性を大事に、遊びを見守ることの大切さも再確認できました。また、参加者を受け入れる際の声かけはどうしているかという質問があり、「よく、来たね」「いらっしやい」と初めて参加された人にも緊張せず安心してもらえることを心がけているという話がありました。

参加した見守りサポーターからは「他地域のひろばの内容もわかり、これから始まる活動の参考になった」「乳児が紙芝居を真剣に見入っていたのはびっくりした。乳児だからと先入観で見ないのも大切だなあと感じた」「見守りサポーターのみんなと顔を合わせての情報交換と考え方の共有ができてうれしかった」などの声がありました。研修で学んだことを地域のひろば運営と見守りに活かして、活動を継続できるように今後も見守りサポーターの養成と研修を実施していきたいと思ひます。

「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪

vol.22 『おおぜいの私にとっての自治と自立』

生活協同組合であるエスコープ大阪の組織運営について、隔月で連載します。

●協同組合は自治的な自助組織

協同組合の価値と原則(協同組合のアイデンティティーに関するICA声明)の第4原則の「自治と自立」では、「協同組合は、組合員が管理する自治的な自助組織である。協同組合は、政府を含む他の組織と取り決めを行ったり、外部から資本を調達する際には、組合員による民主的管理を保証し、協同組合の自主性を保持する条件において行う」となっており、自治的な自助組織の前提はVol.21で報告した自助する組合員による管理です。

エスコープ大阪でも、他団体への加入や取り決めはすべて理事会での協議が必要で、他団体加入で50万円以上の出資を伴うものや、外部からの資金借入れ

のすべてが理事会決議案件となっています。これらは、組合員管理による組織の自主性を担保する重要な視点です。また定款で、一人が出資できる上限を総出資口数の1/4までと口数が制限されています。株式会社と異なり協同組合の議決権は出資金額に関わりなく一人一票ですが、個人が多額の出資を行った場合、事業面に出資金の多寡による影響が起こり、民主的な議決ができなくなる恐れがあるからです。それでは、自治的な自助組織を通して私たちのミッションは何でしょう。

●社会に広がる協同組合の役割

協同組合は組合員の経済的・社会的・文化的ニーズを満たすものですが、様々な課題に対し組合員以外に

も関係する、社会的な役割が求められています。

第6原則「協同組合間協同」では、ローカル、ナショナル、リージョナル、インターナショナルな組織を通じて協同することにより、組合員に最も効果的にサービスを提供し、協同組合運動を強化する。また、第7原則「コミュニティへの関与」では協同組合は、組合員によって承認された政策を通じてコミュニティの持続可能な発展のために活動すると定義しています。

特に少子高齢化の問題や地球規模の環境問題などは、海外の団体や他生協、生産者団体NPO、W.Coとの連携が必要です。エスコープ大阪の福祉事業でも一定割合の組合員外の利用が認められています。特に高齢化が進む地域コミュニティの維持には、組合員外を巻き込んだ取り組みが必要です。いま、泉北ニュータウン地域で実験的に取り組んでいる「みんなのリビングくるり」の活動もその一つです。一度、自分の住む地域を見渡してみませんか。





第6回 理事会報告 <12月4日>

【10月度決算報告】

- 供給高 1億9,880万円(前年同月比90.3%)
- 組合員数 18,648名(前月比-18名)
- 一人当たりの出資金 93,253円

【11月の放射能検査結果】

10月は連合消費材661検体、関西消費材6検体の放射能検査を実施しました。エスコープ大阪供給分で生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

なし

【協議事項】

- ①第7次中期計画 福祉分野補正修正答申案
- ②2025年度エスコープ大阪の方針案
- ③2025年総代会までのスケジュール
- ④「よやく・みかん」の取り組みまとめ
- ⑤秋の手作りみそ大豆について
- ⑥「立川有機米研究会」との今後について
- ⑦関西6生協セット野菜の名称について
- ⑧フードバンク「おふくわけ」全単協取り組みへの参加について
- ⑨ワーカーズの価値をひろげる学習会への参加について
- ⑩生活クラブ福祉事業基金「つながりづくり助成」への申請について
- ⑪生活クラブ福祉事業基金「つながりづくり助成」中間総括への意見提出
- ⑫第8回生活クラブ福祉・たすけあい研究交流会への参加について
- ⑬第3次SDGs単協担当者協議会(2025)への参加
- ⑭GMOフリーゾーン運動全国交流集会inえひめへのオンライン参加について

【報告承認事項】

- ①エスコープまつり2025の開催について
- ②にかほ院内風力発電への融資実行
- ③生活クラブえほんの増刷希望について

編集後記

エスコープ大阪に初めてワーカーズ・コレクティブが誕生してから30年が経ちました。現在、福祉や食事づくり、カフェ運営、個人配達、電話番、編集、店舗運営など11団体が活躍しており、私たちが住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくために、ワーカーズは欠かせません。これからは地域の中に新しいワーカーズが誕生するようにサポートしていきます。(Y)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

<https://s-osaka.seikatsuclub.coop/>



ワーカーズ・コレクティブ紹介

～誰もが安心して自分らしく暮らせる地域をめざして～

誰もが安心して自分らしく暮らせる地域を実現するには、地域で活動する団体との連帯は欠かせません。そこで、隔月で、エスコープ大阪関連のワーカーズ・コレクティブに登場していただき、抱負などを語っていただきます。

ワーカーズ・コレクティブ 円(まどか)

(堺市南区)



メンバーで調理研修をしました

地域に根付いた支援を していきたい

ワーカーズ・コレクティブ円は、生協の呼びかけで集まったメンバーが1997年に設立し、光明池地区を中心に、介護保険制度外のサービスをおこなっています。長く利用していただきつつ、いる方が多く、食事のお世話をさせてもらっていたお子さんが成人となった今でも、家の掃除や家族の介護などで20年以上支援に伺っている家庭もあります。犬の散歩や庭の草引きなどもありますが、家族が遠方に住んでいて家事が大変になった高齢の方や家族と暮らしていても昼間は家族が仕事で不在となる方のお宅などに調理や買い物、掃除のサービスをおこなうことが多いです。高齢にな

ると介護施設に入居される方もいますが、在宅で暮らし続ける方もいます。私たちはそのような方やその家族の方々のお手伝いをしていきたいと思っています。また、近隣の介護施設の入居者の方たちのサポートもしています。以前は一緒に買い物に出かけたり、居室内での支援もできたのですが、コロナ禍以降は対面での支援が難しくなり、以前のように接することができな残念です。今は、洗濯や買い物代行のほか、繕い物のボランティアもしています。

円のサービスはメンバーそれぞれがひとりでおこなうことがほとんどです。毎月の定例会で情報を共有し、振り返りをしたり、利用者の方との対話の仕方などを学び合いながら、日々のサービスをおこなっています。目下の悩みはメンバー不足です。現在は7名でがんばっています。若いメンバーを増やしたいのですが、若い人はフルタイムで、ある程度の収入を得ることができるよう働きたい人が多く、なかなかつながりません。今いるメンバーもだんだんと年を重ねてきて体力の必要なサービスの提供が難しくなっています。今はコロナ禍で弱くなつてしまった利用者の方々の関係性を作り直し、細かいところまで気が付くようなサービスを心がけて支援を続けていきたいと思っています。

おたよりネット

「りっぐる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

消費委員会発行「みんなのみかん」を読んで

南河内地域 Mさん

泉北生協(現・エスコープ大阪)に加入して50年になります。豊共園50年のメッセージを懐かしく読みました。和歌山県下津の豊共園に行って、みかん狩りやジャム作りを体験したこともあります。今は息子さんたちの代になり、これからは生協と共に発展されることを祈ります。

262号3面 活動報告「畑訪問」を読んで

泉北ニュータウン地域 Kさん

年々気候変動の影響で農作物作りがとても大変だと、エスコープまつりで生産者の方がおっしゃっていました。おいしい野菜を食べられるのは、生産者の方がいてこそだと思いますので、消費者の私たちは消費材の購入を継続し、感謝の気持ちでいただきたいなと思います。『旬菜セット』は、いつもは食べない野菜も入っていたり、毎週どんなものが届くか楽しみで、おすすめです。

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
264号(2025.1.27)

キリトリ